

第5期第2回河内長野市民公益活動支援・協働促進懇談会 会議録

日 時：平成24年7月6日（金） 14：00～16：00

会 場：市民公益活動支援センター「るーぷらざ」

出席委員：久、青海、岩井、藤本、井谷、奥野、門田、土橋、常石

事務局：市民協働室：加山、長野、東、杉本

指定管理者：特定非営利活動法人かわちながの市民公益活動推進委員会 西村理事長、常石センター長

1. 開会

2. 案件

① 市民公益活動支援センターの評価について

3. 閉会

① 市民公益活動支援センターの評価について

会 長：評価方法は、ひとつひとつ◎・○・△をしていくというのではなく、全体としてコメントしていただくようになりますので、よろしくお願ひします。それでは、お話を進める前に、今日はるーぷらざの理事長さんにも来ていただひていますので、皆様の方から指定管理者の方には何かございましたら、色々聞いていただひたらと思ひます。理事長、ご挨拶をお願ひします。

理事長：また1年間振り返って自分なりに評価をさせていただきましたが、みなさんからのご意見が聞かせていただひて、今後に反映したいなあとと思ひますので、よろしくお願ひします。

会 長：それでは、みなさんの方から資料を読んでいただひて、この辺りをお聞きしたいなあとこのはございますでしょうか。

会 長：逆に指定管理者さんの方から、日頃から運営していただひていて何か委員のみなさんにもう少しお話ししたいと思ひることや、あるいはこの辺りはPRしておきたいというようなことはありませんか。

理事長：私の方からは、なぜ何項目かに◎をつけたのかという理由をお話させていただきます。1点目は「利用促進の取り組み」のところを◎にさせていただきます。これは数字的にというよりは、まちづくり交流会への参加や協働の支援ということで、新規の団体や地縁型の団体の利用が非常に増えたので、◎評価にさせ

ていただきました。もう1点は「連携及び交流促進を効果的に達成できる計画となっているか」というところですが、ボランティアフェスティバルをきっかけに交流が深まった結果、団体同志で相互で活動しようというのが数例上がってきたということで◎をつけさせていただきました。もう1点、「光熱水費」のところですが、23年度に関しては、管理者のみならず利用者の方から節電に協力していただいている事例があったということで、◎評価をさせていただきました。それと△が1つございます。「スタッフ職員配置」ですが、嘱託職員1名が途中で退職をしてしまいまして、そのあとまた1人を嘱託で採用してはいるのですが、当初想定していた職員を継続雇用できなかったという意味で自責の念を込めて△をつけました。あと、「環境への配慮」というところでは、緑のカーテン等好評で、そこでできた種を配布したりしています。それ以上に、収集ボランティアがロコミで広まり、ペットボトルのキャップや空き缶のプルトップがかなり集まっています。それをわざわざ何袋も持って来てくださる方もいらっしゃいます。一応貢献しているのかなと思っておりますので◎をつけさせていただきました。

全体的には、利用者がだいぶ広がって、土日や夜間の会議なんかも非常に増えております。それなりに普及してきたかなと思っております。

去年は震災がございまして、私どもが声をかけてカンパ活動をやりました。一つのカンパ活動の成功例なのかは分かりませんが、小さい数十人未満の団体でありますとカンパ活動もなかなかやりにくい。それを、うちの方で声かけさせていただきました。時間と場所を設定してやると20人30人のカンパ活動ができるので、信用もあるのかなということで、145万円程いただきまして大槌町の方にお送りしたということです。その辺を新聞等に取上げていただくなど、色んな形で知っていただくことで利用者も増えたと言えるかなというふうに思っております。補足があると思いますのでお願いします。

センター長：センターの方の受託者評価につきましては、理事長の発言どおりです。人員配置のところ△をつけたのは、私どもの運営委員会ではこういう評価ではなかったのですが、私としてはそれは一つの問題点として△という評価をつけました。ただそれは、体制の充実に向けて自分たちが努力できる一つの機会になりました。補充、意識付けもでき、さらにスキルアップできる人材が生まれたということもあります。そういう人材をこれから育てながらやっていける体制はとれたというふうに私は思っております。それ以外は理事長が申したとおりです。

会 長：ありがとうございました。今の話も含めて何か委員さんの方からございませんか。

会 長：では、昨年度でまたこういう方のお顔が見えてきたというような特徴的なところとかありますか。

センター長：ここのセンターの利用者の件ですが、平成23年度は22年度に比べて1000人以上の利用者が増えました。21年までは1万人未満の利用者でした。それを

超えてから、毎年どんどん増えてきているように思います。会議をする人も、相談する件数も、あるいは作業にくる人も、色んな人が増えていると思っております。また、利用する側の団体としては、今までにない活動展開をするような団体が増え、それと同時に相談に来られる方も新しい方がお見えになって新しい相談の切り口でというのが増えてきていると、私に対応していて感じていることです。

理事長：特に市の事業との絡みもありますが、NPOの申請も市がやっているということもありまして、その相談も何件かさせていただいて、このまま施設の利用ということになっています。それと私は夜にスタッフとして入っているのですが、うちの施設は予約をしなくていいというのが、結構重宝がられていると思います。具体例で言いますと、聴覚障がいの方の団体が、月に何回か夜に借りに来られて打合せをされています。働いておられる方がほとんどなので、昼間は会議出来ない、夜は集まれる場所が少ないということで重宝がられています。私どもは手話はできないのですが、できるだけみなさんと会話をできるようにしているところです。

会長：予約をされない方から重宝がられているという話でいうと、立ち上げの時から隣にあるキックスとる一ふらぎの役割分担はどうするのという話があって、予約をする方はキックスに行っていただければいいんじゃないかというのがありましたよね。そういう意味ではうまく役割分担ができていているということですね。あと、私も色んなところで市民活動のお手伝いをさせていただいて、最近30代40代の女性の方がすごくポジティブに活動を始められるようになったのですが、河内長野ではそういう事例はどうですか。

センター長：具体的にいいますと、いま活動されている朗読サークルみちさんは、当初の立ち上げ時からいた方たちより、新しく加わった方たちが多くて、しかもぐんと若い人たちが加わりました。団体によってはそういう特徴が見られている点があります。それ以外にも、以前は団塊世代の方の相談が多かったのですが、最近お見えになる相談の中に若い方が、件数としてそんなに多くはありませんが、出てきているっていうのは事実です。

委員：今の話と繋がると思うのですが、活動紹介冊子「はじめてみませんか」を見て、私も何回か団体にお電話させてもらったのですが、いつも電話すると活動らしい活動はしてませんとかいう内容で、参加できない状態でした。

センター長：その点はすごく残念ではあります。ただ、そういう時にはセンターにちょっと声かけしていただきましたら、この団体は今現在どういう風になってますというお答えは充分出来ます。そういう団体も122の団体の中にはあることは事実です。ただそういう方たちも活動する意志があって、「はじめてみませんか」に掲載をさせてもらっています。私どもの場合は他のセンターと違って、登録団体というやり方はしていないので、あくまでも掲載をさせていただいているので、団体の中

の細かいことまでは把握はしていません。ただ、会員が減ったり、活動が十分できていないというところを私達が応援していくのも私達の役割だと思っています。困ってる団体には大いに相談にのって、「じゃあこういう活動を一緒にしませんか」とか「こういう活動に参加しませんか」というような振り方を出来る限りしていくつもりです。そういう団体も含めて、河内長野の市民公益活動の一緒に前進していくというふうになりたいとは思っております。答えになってないかもしれませんが、私はそういうふうには思っています。

会 長：先程からのやり取りをお聞きしていますと、る一ふらぎに相談してくれたら色々アドバイスしますよという話だったのですが、それが上手く伝わりきれずに直接やり取りしたらいいんだって言う形になってしまったということですね。

理事長：組織として広報しているのでも、直接交渉していただいても結構なんですけれども。冊子に載せるかどうかの問合せは毎年していて、継続の意志があるから掲載をしますが、活動が停滞している団体があるのも事実です。こんな活動を探しているんですと一声こちらにかけていただいたら、また紹介の方もさせていただけるかなと思います。

委 員：子どもが居てるので、ここに来れば子どもがうろうろしたりするので、どうしても直接電話することになってしまいます。

理事長：定期的なことしかしてないという団体もあるので、そうなるはこちらの方が向いているのではという判断もできます。もしお時間がとれるようであれば、こちらに連絡していただければ、もう少し丁寧に対応ができると思います。

会 長：みなさんの方から他にないですか。

では、私の方からもう1つ。河内長野市の市民公益活動の応援をしてきて、入口が広がったとか、団体同士の交流が深まってきたというのは、私も実感しているのですが、もうちょっとあってもいいのかなと思うのは、各団体さんのスキルアップですね。具体的に言うと、ボランティア団体さんからNPOへ、それも自立できるNPOへというスキルアップがあってもいいと思うし、そういった講座を充実させてもいいと思うのですが、このあたりはどうでしょうか。

センター長：一番そこが懸念しているところですが、これでいいとは決して思っておりません。会長がおっしゃられた意見については、まさに今、企画が終わったところです。まず、NPO関連講座ですが、これはNPO法人だけでなく任意の団体も含めて、今年はNPO関係の講座を基礎から何回かシリーズでやっていきたいと思い、今リサーチ中です。それから、団体のあり方については、今年は団体を支援する講座を開いていこうと思っています。24年度はパソコン関係に絞って、講座を基礎から連続で開催しようということで、3月までの内容を詰めているところです。

今後、NPO関連講座は、もっとスキルアップするために、センターのスタッフも含めてNPOの運営に関する講座をしたいと思っているのと、団体支援としては、団体が何を望んでいるのか利用者から話を聞いて、24年度についてはパソコン技術の向上の講座を、次年度以降も毎年テーマを決めて団体支援のための講座をやっていききたいと思っています。今までに無かった事業をしたいということです。

会 長：ひとつ教えていただきたいのは、NPO法が改正になって、役員代表権が理事長だけになりましたね。大変な作業をする必要がありますが、そういうものが河内長野市拠点の全NPOさんに伝わっているのかどうかを調べておかないと、たぶんぼーっとしていて、そのまま継続されているところがあるんじゃないかと思います。その辺りはどうなっていますか。

理事長：その辺は市の方で行っています。

事務局：それは市の方から、NPOの改正を受けまして河内長野市に登録している31法人にすべて説明させて頂きました。今後NPOを立ち上げようとされる方も含めて、説明会で代表権のことも含めた全ての改正について説明をさせて頂いて、今随時、認証事務等の手続きを行っているところです。ほとんどのところは問題なく進められている形です。今後、立ち上げようとするところについても、一緒に情報を共有していますので大丈夫かと思っています。

理事長：市民公益活動推進委員会としては、NPO法人化は数名で進めていった部分もあるので、会員の中でもちゃんとNPOを勉強しようということで、先日も講座をしました。それをステップにして、次のステップでは団体のみなさんへ講座をとということですが、専門的になりすぎたら何を言っているのか分からないし、一般の認定NPOの研修でも、高いものを目指すNPOの人と、まずNPOになろうと考えている人とで落差があって、講師をやる方もかなり難しいと思います。これを1年間で何回しようかなと思っています。

会 長：推進委員会さんが勉強したいという内容があると思うので、そういうものに指定管理料を使わせて頂いて、ついでに市民グループさんに呼びかけていただくようにするとすごく効率的に出来るのではないかと思います。スタッフのレベルアップのために講師を呼びたいというのは、推進委員会だけでなく、全ての団体さんに共通しています。おそらく河内長野のNPOさんの中では、推進委員会がトップランナーとして走ってらっしゃると思うので、推進委員会がみんなを引っ張っていくような講座になればいいと思います。他に何かありませんか。

委 員：勉強不足で申し訳ないのですが、言わせていただきます。今の話とは外れますが、具体的にどういう活動をされているのかを知らなくて、ホームページや活動報告

書などを見させてもらって、膨大な範囲に渡ってよく活動されているなどということを知ることがあります。東北の大震災の件です。先ほど話がちらっとあり、募金活動をされているということですが、河内長野市は大槌町を支援するというのは決まっているのですか。

事務局：はい。詳しい話は後ほど。

委員：私の家内もマットづくりをお手伝いさせていただき、募金もさせていただいたのですが、あれから1年経って、特にマスコミの方ではトーンダウンしています。私たちはテレビや新聞等でそういう情報を知るしかないのですが、今どういう現状なのかを見てみたいという衝動には駆られますが、そこまで行く余裕がないです。私は前職が学校の教師でして、堺市の校長は、宮古へ行ってボランティアをし子供たちと交流して帰ってきて、それを毎週月曜日に朝礼で子供たちにお話ししています。また、子供たちが書いて文部科学大臣賞を取った作文をホームページに掲載するというような取組をおこなっている先生方もいます。そういう状況でしか、私たちは情報が分からないです。できましたら大槌の件を発信してもらえたらなあと思います。河内長野市の方は定期的に支援している訳ではないですよね。

事務局：3・11以降の市の大きな流れを説明させていただくと分かりやすいかなと思います。3・11以降、河内長野市が大槌町を支援させていただいているのは、関西広域連合が岩手県とパートナーを結んで重点的に支援し、その中でも河内長野市は大槌町をということで、当初から消防・水道・行政職員が大槌町へ行っています。大槌町ではかなりの職員さんがお亡くなりになられて、行政機能が全く動かない状態になりまして、岩手県の中でも重度の被害を受けたところでした。当初の活動としては、支援物資を送るのに市民の皆さまのご協力をいただいて10トントラック一杯の物資を大槌町へ送らせていただきました。義援金についても、当時で約3千数百万円を送らせていただきました。また、職員については、全体で23名が現地で色んな活動をさせていただきました。その後、復活テレカという全国で初めての取組をおこないました。これは、昔のテレホンカードが各家庭に残っているだろうという市民からの提案がありまして、その集まったテレホンカードを一旦市の電話料金に入れさせていただき、同等額を大槌町の方へ送らせていただきました。それが約580万円、全国から約12,000枚集まりました。また、るーぷらざさんが中心となって駅前などで義援金を集め、送っていただきました。今年度になりまして、5月に広報等でお知らせさせていただきましたが、やはり1年経つと風化していきます。もう一度振替っていただいて、防災意識・絆意識を熟成させていただこうということで取組ませていただいたのが、先ほどからも話に出てきているマットづくり等です。マット、素焼きの鉢で作るテラコッタドール、昔遊んだ竹とんぼ、千成瓢箪を使った絵付けなどを、避難所におられる方と一緒に作り、それ以外にも様々な交流を市民の方と共に持つという取組を通じて、それを広報を通じて発信する

ことによって、もう一度風化しかけてた思いを取り戻していただきたいということでおこないました。

今後は何をするかという話については、今度は純粋な民間レベルで大槌町ともう一度交流し、また市民に大槌町の現状を分かっていたらこうということで、取組みをされるようです。これも継続的に毎年こういった形で、大槌町の町民と市民の間で交流の輪を広げていこうということで、まずは8月8日に大槌町の中学校のブラスバンド部の方々にこちらに来ていただきまして、河内長野市の学校と一緒にラブリーホールで演奏会を開きます。その間に、ご両親や学校関係者と河内長野市の関係者との交流を深めていただくという取組みも考えていただいています。これは、市民の方々の発意で自主的に行われており、我々市役所や教育委員会はあくまで後援ということで、非常にありがたい取組みをしていただいています。

委員：この方達は大槌町の方へも行かれて、ずっと交流していらっしゃるのですか。

事務局：そうです。昨年には、ロータリーの方々が中心となって、大槌町の吹奏楽の楽器などが全部流されてしまったので送ったというのが、ひとつの契機になっています。風化しないよう民間レベルでの継続的な支援をこれからも続いていくということで、みなさんで支援して応援していただきたいと思います。

理事長：今お話を聞いていて思ったのですが、今後のことですが、継続して支援救済だけを取り上げた冊子を作成するのもいいかなと思いました。

委員：マスコミというのは、ニュースとして起こったときには華々しく流しますけれど、しばらく経つと沈滞していきます。しばらく経って、ちらっと新聞やテレビ等で見たとき、風化しているなあという印象を受けました。避難所へ行った人に話を聞くと、前は泥運びなどの労働が求められていたのですが、今は高齢者の方々と話し合うような機会を非常に求めていらっしゃるという話を聞いています。

理事長：マットづくりでは、避難所の遠いところからわざわざ車で来て、一緒に参加をしていただいて、色んなお話をしていただいたり交流をしてきました。土砂はもう片付けられていました。けど、すぐそこが海なので、その中で町を再開発するにはかなりの計画がいり、再建は絵を描きにくいと思いました。また、仕事をしていない高齢者の方などは、全く住んでいたところと違うところに住んでいらっしゃるので、昼間に何をするかということで、若いボランティアさんも来られていましたが、そういう方が必要だと思いました。そういった情報をまた継続して出せたらいいと思います。

事務局：災害時の取組みは、市のホームページのほか、ニュースでもかなり取り上げられて発信されていると思うのですが、向こうでの状況はどうかというのは発信して

いないです。我々も大槌町へ行ってますので、その状況も発信していきたいと思
います。

会 長：向こうへ行って支援をされている方が定期的に報告会をしていただくと、現状や
今何が求められているのかという情報も、より伝わるのかなと思います。

委 員：去年は市長さんも講演をされて、報告されていますよね。

事務局：去年に市長も報告会をさせていただいて、今年も7月24日に東日本の状況や活
動と、そこから河内長野市が何をどう学んでいくかというお話をさせていただきます。
良かったら7月24日にキックスで、傍聴という形になりますが聞きにき
ていただけたらと思います。

委 員：新しく委嘱を受けて、初めてこういう資料を見せていただいて、これだけの仕事
をするのは大変だなあと思いました。こうして自己評価もされてるようですし、
第三者として私からは何も言うことがないです。これからも続けてご苦労願え
たらと言うことしかございません。以上です。

会 長：今、大学でもお互いに評価をし合うということをしています。大学の場合は5年
に一度ぐらいの評価ですが、10cm程の資料を用意しないといけないので、評
価疲れをしてしまうような感じです。でも、慣れてくるとできるだけ手間をかけ
ずにするという習慣づけはできると思います。この活動報告書も、資料を集めて
おけば製本するだけでいいという形がだんだん見えてくると思います。習慣づけ
るためには、年に一度こういう形をとるのがいいのかなという気がします。ど
うしても今までだとやりっぱなしというところがありましたので、しっかりと記録
を残し、その都度評価をしたいというふうに思います。

委 員：市民のつどい「いくいく」というのは休止されてるんですね。

理事長：休止しています。見直しをしたいと思っています。参加者がほとんど無くなっ
たので、時間帯、企画、場所等、もう一度検討をして、年内には実施するかどう
かの結論を出そうと思っています。申し訳ありません。

委 員：まちづくり交流会もされていると書かれています。

理事長：まちづくり交流会の方は地域の人たちが主体になってしています。市とる一ぷら
ざが応援していますが、地元が主体なので、継続して活動しています。参加者が
縮小したり増えたりという波はあります。今、協議会に進んでいるところもあり
ます。

会 長：ご関心があるようでしたら、昼間に一ふの集いもあります。

理事長：これも増えるときもあれば減ることもあり、いろいろです。

会 長：他にいかがでしょう。

会 長：先ほど、受託者側から◎つけたという話が出てきました。何を持って○なのか◎なのかは難しいですけど、行政側は受託者が◎をつけられているところを○にされています。相手さんが◎をつけているところも含めて、ご感想でもいいのでお願いします。

事務局：全般の評価が、一番最後のページの下の行政コメントとなっています。そもそもこの市民活動支援センターというのは、行政でも市民でもなく、その中間に立っていただいて、活動を支援していただく立場だと思います。そういう意味では、コーディネート機能を発揮していただくことを期待されていると思います。23年度は、市の制度である補助金、協働事業提案制度の2つの制度に積極的に支援をいただけたと思うこと、こちらの自主事業でありますボランティア活動体験・見学プログラムのプログラム内容が増えて拡大をしたというようなことが、非常に評価されることだったと行政としては感じました。それ以外に特に主要なテーマになってくるのが東日本大震災の支援活動です。市民の先頭に立って支援をサポートしていただいたというのは非常に大きな評価になりました。◎をつけさせていたいただいたのは、「災害時地域住民全体の安全を確保できる取り組みとなっているか」という項目ですが、東日本大震災の被災地支援を通じて社会福祉協議会さんなどと連携しながら、結果的にはフィードバックして河内長野市の災害体制構築につながったのではないかとということで◎をつけさせていただきました。それ以外では、受託者評価で◎なのに市はなぜ○なのかという説明になりますが、今回の評価は第2期の指定管理の第1回ということになります。あまり初回から◎というのではなく、今回の評価が基準になるということからも考えて、特に評価の高かったところを◎させていただきました。○が悪いわけではなく、達成・実施できているということで○にさせていただきました。それで説明になっていますでしょうか。

会 長：先ほど言いましたように、◎と○というのは、どこまでいけば◎になるのかということなんですが、お互い見方が違うかなと思いましたので確認の意味で言わせていただきました。

理事長：また調整会議の方で、話をさせていただけたらと思います。

会 長：先ほどから、もっとうすればより良くなりますねという話を言わせていただいているのですが、受託者評価で◎がついている項目のかなりの部分で、環境活動

への取り組みがありますね。おそらく私の考察で言うと、推進委員会さんの中に環境に取り組んでいる団体さんの方がおられるということが、こういうところにつながっているのかなと思います。それが他市の指定管理者さんとは違い、推進委員会さんが受けておられる特徴の一つかなと思います。例えば、緑のカーテンも率先してされているのも、それを進めておられる団体さんが委員会さんの中におられるというメリットだと思います。それと、交流が促進できるというのも、そもそも推進委員会さんがネットワークでできた組織であるというところの強みがあるように思いますので、そのあたりは第三者評価でも積極的に評価をさせてもらってもいいのかなと思います。

ちなみにこの報告書にもありますが、寝屋川市のセンターの運営委員会さんと昨年度は交流していただきましたが、寝屋川市さんは、ボランティアフェスティバルの話聞いて、規模の凄さというのをびっくりされて、これだけの規模をどうやって運営されているのかということなので、あえてボランティアフェスティバルの日に視察に来られましたね。そういう意味では、寝屋川市との比較でいっても、あれだけの交流のイベントを積極的にされているというのは評価は高いというように思います。たまたま私は色々な市をお手伝いしているので、他市と比べて河内長野市のる一ふらぎの特長というのが見えてきます。そういう意味では先ほども言いましたように交流を積極的にされたこと、環境の取り組みが非常に良い流れになってきていることについては、高い評価をさせていただいてもいいと思います。

他にいかがでしょう。

会 長：これはちょっとなかなか難しいところがありますが、先ほど△がついていたところですが、これは市には厳しい言い方かと思いますがけれども、あと1.5倍給料を払っていたら継続雇用が出来ていたかもしれないというのはありますね。どうしても人件費面での制限がかかってしまうがゆえに、十分な安定雇用にといいところまで、努力が必要かなと思います。もう少し給料を差し上げてもいいのにといい気はしますが、これはここで言っているいいものではなく、もう少し上のレベルで言い続けて行かないといけない話なのかなと思います。

事務局：一昨年、懇談会の中で安定的な雇用というの話がありまして、市内部でも協議をしました中で、平成23年度からは継続的に来ていただける嘱託職員をといいことで、若干前向きには取組みさせていただいています。今回、△だったというのは、市としても非常に残念であると、深く受け止めております。ただ、センターさんと色々お話をさせていただいている中で、常勤でボランティア活動を心底ささえていただけるような思いのある人がなかなか近場では見つかりにくいというのも現実としてあるようです。できましたら、懇談会の皆さまのお力を得て、そういう思いのある方をご紹介などしていただけて、一緒にやっていけたらと思います。よろしくお願いします。

理事長：実際5年契約なので、5年間だけこの給料で働いてということでは、結婚していけるのかという話にもなります。なので、難しいですね。それをわかった上で受託しておりますので言えない部分もあります。会長が言われた話については、今後の方向性になっていくと思います。急には増やしてはくれないと思いますが、できるだけ若い人が働けるような環境を作っていかなければと思います。平均年齢は59才と高いです。自主財源を作れという話にもなると思いますが、今はそれだけの力にはございませんが、もしできればそういう工夫もしていければと思います。またご協力をお願いします。

会長：恐らくそういう話が自由にできるのは、この懇談会の立場でしかないのかなと思います。行政と推進委員会さんの中ではこんな話にはできないと思いますので、我々が社会的な定義として言い続けていく必要があるのかなと思います。今、堺の市民活動コーナーの委託をうけているNPO法人の理事さんは、もともと河内長野で総合計画の時に大学生で関わっていて、彼はずっと市民活動の支援をやりたいと言っていたので、指定管理をするのがあと3年早かったら、彼はここの職員として勤めてたんじゃないかなと思います。跡をついでいただけるような若者がどんどん現れてきて、みんなが支えていく体制が作れればと思います。

理事長：そういう意味で一つお話があります。南河内のエリアでは、大谷大学さんとも協力し合って、河内長野市だけでなく富田林や大阪狭山市などと共同で、支援センターを中心にネットワークを組んでいます。今年も12月に大谷大学でNPOや市民公益活動をしている団体向けに講演会とワークショップをする予定をしまして、そこで大学生に参加してもらおうということで、大学の講義にも組み込んでいただいています。そういう意味で若い子が参加してくれればうれしいかなと思います。

会長：若い子で頑張っていらっしゃるのが、伊丹のセンターです。立地条件としても阪急伊丹の駅舎の中にあるというメリットもあるのですが、月1回の集まりの中に高校生を巻き込んでやっぺらいちゃいます。長野高校も微妙な距離なんで、そのあたりを巻き込みながら楽しくできればと思います。

理事長：それは休みの日ですか。

会長：いいえ、平日の夜です。だから、大人が集まっているところに高校生が来てくれるような関係性ですね。ここでいう「る一ぷの集い」のようなところに高校生が入っているような形です。個人的にはセールスへ行っています。まずフェスティバルの出演者になってもらい、それから企画委員会に入ってもらって、ついでには「る一ぷの集い」のような会にも入ってもらいます。このあたりでは、大阪狭山市は狭山高校の人達とうまく連携してるようです。

理事長：うどいすよね。

会 長：うどいさんは、まずは自分たちがフェスティバルで踊らせてもらう代わりに狭山池の掃除をすることになり、最初はしぶしぶしていたのが面白くなってきてという話があります。まずは彼らのメリットを提供してあげて、どんどん深みにつれていくのが戦略だと思います。
この絆コンサートで大槌中学などと交流することがチャンスだと思います。

委 員：中学は一校だけですが、高校生たちの参加意欲が強く、これだけ大きな集まりになりました。高校生の皆さんの気持ちがあるということがすごく分かりました。先ほど会長がおっしゃったことを実行し、この方達といろいろな話がしていけたらいいなあと、むしろすべきだと思っています。

会 長：終わって充実感がいっぱいの方に反省会を持ってあげて、ついでに、来月にる一歩の集いがあるよという形にすると、彼らもどんどん輪の中に入ってくださるのでは。

委 員：ずっとここで会議をしているので、終わった後に参加者の皆さんでここに集ってもらうのもいいかと思っています。

会 長：あといかがでしょうか？よろしいですか。
それでは、ここでヒアリングという形は締めさせていただきます。あとは懇談会としてどう評価するかという話をさせていただきたいと思いますので、とりあえず場面転換をさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

会 長：懇談会としての第三者評価のお返しをしたいと思います。任期も変わったばかりで、なかなか難しいとは思いますが、毎年こういう形でさせていただいておりますので、今回は発言の機会が少なかったかもしれませんが、次回いろいろと発言いただければと思います。
私が大半喋しゃべってしまいました。先ほども申し上げましたように、環境活動や入口の人たちを増やしていくということにおいては、他市と比べても非常に頑張っていますねという評価でした。それとは逆に、NPOや団体さんのスキルアップの講座等をより充実していただくといいのかなど。この2点くらいをお返しするというところでよろしいですか。あと何かありますか？

会 長：ありがとうございます。事務局の方もそれでよろしいですか。

事務局：はい。

会 長：せっかくの機会ですので、センターさんに対する思いや聞きたいことなど、どん

な話でも聞いてみてください。先ほどもご意見があったように、この委員になって初めてこういうお話をする方もいらっしゃると思いますので、些細なことでも結構です。

会 長：ご自身じゃなくても、周りの方でこういう活動に対して色々と思っている方もおられるでしょうね。

委 員：私は小さい子どもを持つてるお母さんの知り合いが多いのですが、ボランティアか分からないですけど、何かしたいという思いはあると思います。子どもがいたりして、なかなかできないのですが、やりたい思いは伝わってきています。

会 長：私も色々話をしていて、今30代40代の女性の方々というのは、それなりのキャリアでずっと来られている訳ですね。結婚をされ子供もできたということで、一旦退職はされますが、やっぱり社会との関係をずっと持ち続けたいという方がどんどん増えてきていると思います。正規の仕事に戻るにはまだしんどいけれど、自分のできる範囲の中でできる活動というのを求めてらっしゃるという方が多いのかなと思います。そういうモチベーションというものをうまく引き出して差し上げれたらと思います。
どういった条件が整ったら、もっと気軽に参加できますか。

委 員：色々な講座がありますが、保育付にしてもらえるとありがたいです。あと、交流会は夜の7時から9時という絶対出れないの時間なので、もう少し行きやすい時間帯であればいいと思います。初めから相手にされてないような時間帯という印象も受けます。

会 長：具体的には午前中のほうがいいですか。

委 員：そうですね。夜は絶対に出れないです。

事務局：平日の午前中というのは、子どもさんが学校などへ行っている時間というイメージでいいですか。

委 員：そうですね。

会 長：私もできるだけ子育て層の方に参加してもらいたいと働きかけていますが、意見として出てくるのは、子どもさんが自宅にいない午前中か、場合によっては夕方3時以降に子どもさんが帰ってきてから出て行くかになります。でも、一番いいのは午前中になります。

事務局：参考になります。交流会は今まで全て夜なんです。夜7時から9時というのは、

行政目線で設定してしまっていました。我々は昼間は市役所の方で仕事して、夜の時間外にっていうのが前提にあって、夜だったら皆さんが出て来られるかなというイメージでしたが、逆にそういう時間帯だと、ほとんどが男性で定年退職された方ばかりです。新しい住民の方に来ていただけないのが非常にジレンマになっています。若い人が来れるよう、参考にさせてもらって、時間を替えてみます。

会長：具体的な話をさせていただきますが、生駒市は福祉のボランティア講座を平日の夜にずっとされてきました。それを昨年度から土曜日の午前中に替えられました。そうすると受講者の方の顔が変わり、30代40代の女性の方と、大学生も来られました。やはり時間帯というのはすごく重要だと思いますね。先ほどもご意見があったように、私らには関係がないのかなという時間帯というのは正直なご意見だと思います。他に何かないですか。逆に一ふらざさんから皆さんに何かないですか。

センター長：前年度の第三者の総合評価の時に、センターの機能は向上してることを認めますという上で、体験プログラムは子どもたちにボランティアのきっかけを作る事業なので、さらに充実させていってくださいという評価をいただきました。今回、今年度の企画をしたときも、今までよりも違う団体さんが多くのプログラムで参加してくださりました。実施側としては、自分たちが楽しみな気持ちになっています。今年の体験プログラムをするにあたって、私たちは、参加してくださる団体があり多くのプログラムがあるということだけにとどまらず、プログラムを受けてくださった幼稚園の方から年配の方までが、受けてどうだっただろうかということ意識してやっていきたいと思っています。そういう意味で、懇談会でいただいた第三者評価の内容は、すごく重く受けてとめています。

私は日頃から活動報告書のような活動をしています。報告書にはないような活動もセンターの中にたくさんあります。前々から一番指摘されてる点は、センターを担っている担い手がスキルアップしなければいけないということです。私で良いのかと思うときがすごくあります。でも、私が逃げるわけにはいけないので、自分のアップをすることが必要であり、人に言う前に自分がしなければいけないと思いました。だから、23年度は、自分で時間を作り、色んなところへ参加させてもらったり、色んな研修へ行ったりして、自分のスキルアップをはかることに重点をおきました。

一つの例としては、22年度に通った立命館大学のプログラムの先生から、センターでの活動のレポートを大学のニューズレターに載せたいから出して欲しいという依頼を最近受けました。そのレポートが、センターを担う担い手としての意識付けになったので、レポートの形でいろんな活動を書いていきたいと思っています。

ただ、私個人としては、健康問題には無頓着なところがあり、皆さんに迷惑かけたところもありました。この点については、すごく留意しなければならないかと戒めています。指定管理2期の1年目が終わり、2年目3年目と続きますが、こ

のままの事業で良いとは思っていないので、これを土台に自分たちがすべきこと、センターの役割を果たすためにはどうして行けば良いのかなど、皆さんからの批判もどんどん受けますので、それを十分受け止めるだけの力を持ってやっていきたいなあと思っています。

会 長：そろそろ二人目、三人目のセンター長を育てる時期なのかもしれないですね。

センター長：でも、ずっとフル回転しているので、それだけの余裕がないです。方々からも言われるので、よく分かってはいるのですが、市民活動というのは難しく、どう伝えていくか、誰に伝えようかというのがあります。

今日の話には出ていませんが、大学生のインターシップを取り入れたいと思っています。そういう方たちの力も考えもいただきながら、自分の中で余裕を持っていきたいです。そうしないと、後継者のことを考え、人を指導するところまで自分は到達しているのだろうかという自責の念があります。

会 長：私も個人的な話になりますが、私は兵庫県川西市のセンターの指定管理を受けている立場でもあり、うちの事務局長にも全く同じこと言っています。事務局長が頑張っているのは分かるけど、二人目、三人目の事務局長を作らないと、やっぱりしんどくなるよねと言っています。どこのセンター長も同じ様な状況かなと思います。でも、みんな一緒だけ歳を取っていくので、常にそのことを考えておかないといけません。自分の体力も落ちてくる一方ですので、次の世代に渡していくようにしないといけないかなと思います。

あといかがでしょうか。

委 員：障がい者雇用についてですが、職員採用に努力されていると書いてありますよね。自分たちで使ったところは自分たちで清掃しますが、木のところに草がいつも生えているので、障がい者の人に仕事はいただけないのでしょうか。

会 長：それは指定管理料の中からということになりますので、推進委員会さんで話をさせていただくことになると思いますが。

センター長：これは全部委託事業になっています。清掃関係やドア、空調、防災の消火器関係など、全て業者への委託事業になっております。業者選定は随意契約じゃなく、最低3社以上の見積もりを取っています。もちろんこちらの条件も全部出します、その中で一番安い業者へ委託し、何年か契約をしています。清掃も契約の締結が終わってしまっています。でも、今おっしゃった内容は記録しまして、その声は残していきます。

会 長：他にないですか。それでは予定より早く終わりましたが、全ての案件が終了しましたので、これで終了させていただきます。ありがとうございました。